



“祈り”

第415回定期演奏会

2021.10.15(金)

18:45開演 [17:45開場]

Fri Oct 15, 2021 Start 18:45 [Open 17:45]

広島文化学園HBGホール

広島市中区加古町3-3

Hiroshima Bunka Gakuen HBG Hall

ブラームス

ハイドンの主題による変奏曲作品56a

Brahms: Variations on a Theme by Haydn Op.56a

ラフマニノフ

パガニーニの主題による狂詩曲作品43

Rachmaninoff: Rhapsody on a Theme of Paganini Op.43

ヒンデミット

ウェーバーの主題による交響的変容

Hindemith: Symphonic Metamorphosis of Themes by Carl Maria von Weber

※当初の予定から出演者が変更となっております。

コンサートマスター：佐久間聰一

Concertmaster: Soichi Sakuma

チケット(税込／全席指定)

S席5,300円・A席4,800円・B席4,300円(学生1,500円)

*学生席は小学生以上25歳以下の学生が対象。要学生証。(広響事務局のみで取り扱い)

チケット発売日／2021年8月17日(火)

プレイガイド

ローソンチケット(Lコード:62025)・チケットぴあ(Pコード:193-023)・広響事務局

*やむを得ぬ事情により、出演者・曲目等を変更する場合がございます。

*就学前のお子さまのご入場はご遠慮ください。 *開演時間に遅れられた場合、入場に制限がございます。

主催／公益社団法人広島交響楽協会、中国新聞社



文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

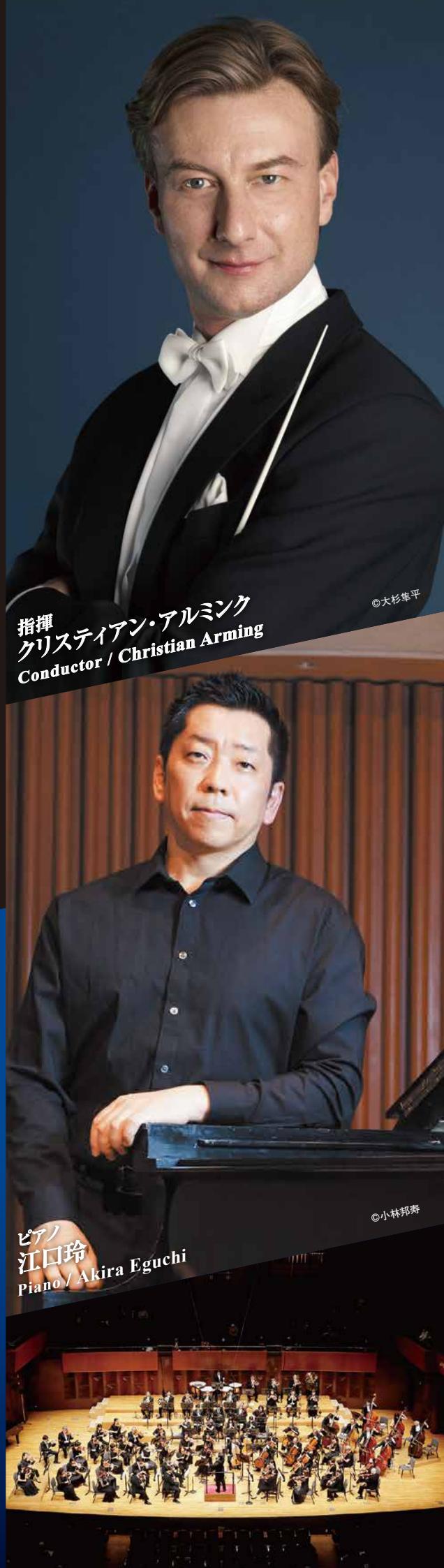
助成／
プレミアム協賛／
 マツダ株式会社

後援／広島県、広島市、広島市教育委員会、NHK広島放送局、
中国放送、テレビ新広島、広島テレビ、広島ホームテレビ、
広島エフエム放送、月刊ウェンディ出版局

お問い合わせ ▶ 広響事務局 TEL: 082-532-3080 HP: <http://hirokyo.or.jp>

広島交響楽団

Hiroshima Symphony Orchestra
The 415th Subscription Concert





作曲家が自作以外の作品からインスピレーションを得て搜索した3演目が並ぶ。それでいてすべてが名曲・名作揃い。一晩で6人の作曲家のエッセンスを味わえる、お得感満載の何とも贅沢なプログラムだ。指揮者は約2年ぶりの登壇となる広響首席客演指揮者のクリスティアン・アルミング。ピアニストにはコロナ禍で出演が困難となったルーカス・ゲニューシャスに代わり、日本とニューヨークを拠点に各国で活躍する江口玲が登場する。当日演奏するピアノはラフマニノフが長らくニューヨークの自宅で愛用していたスタインウェイ。名曲の誕生に立ち会ったピアノがどんな音色を響かせるのか楽しみだ。



指揮

クリスティアン・アルミング

Conductor / Christian Arming

ウィーン生まれ。レオポルト・ハーガーや小澤征爾のもとで研鑽を積み、ボストン響や新日本フィルにデビュー。ヤナーチェク・フィルの首席指揮者、ルツェルン歌劇場およびルツェルン響の音楽監督などを経て、2003～13年に新日本フィル、2011～19年にベルギー王立リエージュ・フィルの音楽監督として活躍。2017年からは、広島交響楽団の首席客演指揮者を務めている。

これまでにチェコ・フィル、ドレスデン・シュターツカペレ、フランクフルト放送響、ウィーン響、ザルツブルク・モーツアルテウム管、トゥールーズ・キャピトル国立管、スイス・ロマンド管、ボストン響、シンシナティ響、N響などに招かれ、オペラではフランクフルトやストラスブルの歌劇場、新日本フィルなどで《ドン・ジョヴァンニ》《サロメ》《ホフマン物語》《フィレンツェの悲劇》などを指揮している。2019年には小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトで小澤征爾と共に《カルメン》全4公演を指揮した。

レコーディングも数多く、ヤナーチェク・フィルとのヤナーチェク、シューベルト作品、新日本フィルとのブライムス／交響曲第1番、マーラー／交響曲第3番および第5番、リエージュ・フィルとのフランク／交響曲ニ短調などをリリース。2018年にはリエージュ・フィルとシルバ・オクテットの共演によるディスクがドイツ・グラモフォンからリリースされた。



ピアノ

江口玲

Piano / Akira Eguchi

東京藝術大学附属音楽高校を経て東京藝術大学音楽学部作曲科を卒業、その後ジュリアード音楽院のピアノ科大学院修士課程、及びプロフェッショナルスタディーを修了。1992年に大成功を収めたアリストアーホールでのニューヨークリサイタルデビュー以来、アメリカ、ヨーロッパ、アジアでの主要演奏会場にて演奏を続けてきた。ニューヨータイムズ紙からは「非凡なる芸術性、円熟、知性」「流暢かつ清廉なるピアニスト」と賞賛されている。

作曲・編曲者としても実力を備えた大胆な解釈と表現技法でリサイタルや協奏曲など国内外を問わず活躍を続けるほか、ギル・シャハム、渡辺玲子、竹澤恭子、アン・アキコ・マイヤース等数多くのヴァイオリニストたちから絶大な信頼を得ている。レコーディングはドイツグラモфон、フィリップスやNYS クラシックスより多数のアルバムをリリース。最新作は川口成彦との共演で、ショパンの音楽の変遷を描いた作品「Chopin×Chopin」(NYSクラシックス／2020年10月発売)。レコード芸術2020年12月号で特選盤に選出された。

2011年5月までニューヨーク市立大学ブルックリン校にて教鞭を執る。

現在もニューヨークと日本を行き来して演奏活動を行っているほか、洗足学園音楽大学大学院客員教授、東京藝術大学ピアノ科教授を務める。

新型コロナウイルスへの対応について

会場では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として以下の取り組みを行っております。皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。



当日はご自宅で検温していただき平熱と比べ高い発熱がある場合や、体調がすぐれない方はご来場をお控えください。



会場内では、常時マスクの着用をお願いいたします。



手洗い、消毒の励行にご協力ください。



会場内の不要な会話はお控えいただき、演奏後の「プラボー」などのお声掛けもおやめください。



入場時、トイレなどは間隔を空けておびいだくようお願いいたします。